

人間関係の心理学 その2

<社会的促進と社会的手抜き>

1 社会的促進と社会的手抜きとは

人間は社会の中で生きているが、その影響はしばしば自分では気づかないような形で作用している。例えば、大学に入学してはじめて1人暮らしを始め、1人で食べる食事は、家族や親しい友人と食べる食事と比べてどうしても味気ないものになりがちで、食が進まない。一方、コンパなど楽しい席では、びっくりするほどの量を食べたり、お酒も思いのほか飲みすぎでしまったりという経験のある方も少なくないと思う。

自分1人ではできないと思っていたことが、他人と一緒にできるという例もいろいろあると思う。スポーツやその他のコンクールで優勝した団体のインタビュー記事を読むと、「チームが一丸となって頑張れたから」とか「チームワークの勝利だった」というコメントがよくある。

このように、他者が存在することにより、ある行動が促進される現象を(1)と呼んでいる。一方、(1)とは反対に、他者と一緒のときには、1人だけのときに比べて実力が出し切れないという現象も知られている。

1人なら1時間で終わる作業なので、4人なら15分で終わるはずだと思っていたら、30分もかかってしまったり、1人なら平均50kg引ける綱引きでも、4人のチームでは150kgしか引けないとか、むしろ集団では効率が落ちてしまうことがしばしばある。チームプレイでは、(2)がむしろ、あいまいになってしまい、知らず知らずのうちに各人が手抜きをする場合がある。

このように、他の人たちとの共同作業で、個々人の基本的能力の和が達成できないという現象を(3)と呼んでいる。ただし、この場合の手抜きとは、(4)とは限らない。集団作業にはタイミングの合わせ方など個人作業にはない技量が要求されることもあるからだ。また、チームプレイでは、(5)のプレッシャーがかかり実力を発揮しきれないこともよくある。一般的に、義務的な行動など、どちらかという動機づけが低い行動では、(3)が起きやすいと考えられる。一方、楽しいイベントなど高い動機づけがある場合には、(1)の効果が働くようである。